

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山東部小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらか言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらか言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全 国 平 均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	100%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	100%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	100%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	100%	84.9%

全ての項目で、全員が肯定的な回答をしています。自己肯定感が高いことが分かります。「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の回答からも対話を通して相手を尊重する力・主体的に学ぶ力の高まりが見られます。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	66.7%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	33.3%	27.4%
「30分より少ない」	0%	12.9%
「全くしない」	0%	5.7%

2時間以上勉強していると回答した児童は、いません。それでも、学力が高いのは、授業時に集中して学習し、家庭学習も継続して行っている成果であると考えます。

(2)改善に向けての取り組み

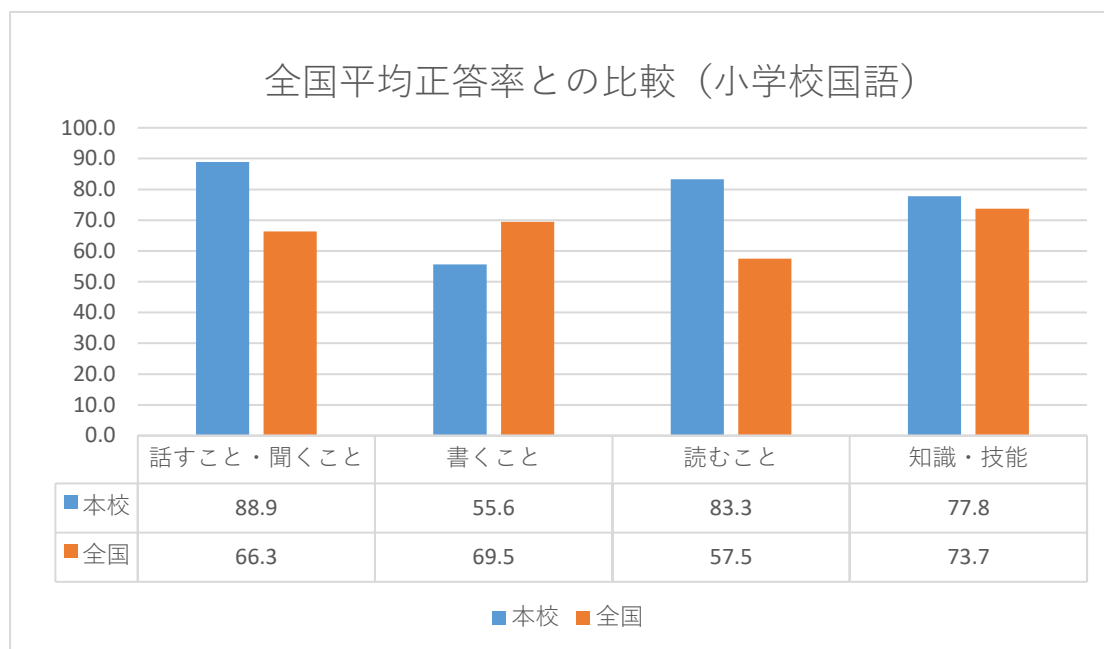
【学校では】

- 佐賀市学校教育ビジョンで目指す主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。
- 学校をよりよくしていくために、児童のアイディアを聴きながら、主体的にルールメイキング等の活動ができるようにしていきます。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 家庭学習の6学年の目標時間は、1時間30分です。宿題だけでなく自主学習・読書も含めて、自分で計画を立て学習できるように励ましてください。

2 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「読むこと」「知識・技能」で全国平均正答率を上回っています。「話すこと・聞くこと」「読むこと」では、全国平均正答率を大きく上回っています。全ての領域で無解答ありませんでした。

全体では、全国正答率を 12.2 ポイント上回っていますが、「書くこと」では、全国正答率を 13.9 ポイント下回っています。

(2) 成果と課題

「話すこと・聞くこと」は、全国正答率を 22.6 ポイント上回っています。これは、継続的に全校スピーチに取り組んでいることの成果が表れていると考えられます。

「読むこと」も、全国正答率を 25.8 ポイント上回っています。これは、読書習慣が身に付いていることと家庭学習を着実にやっている成果の表れだと考えられます。

「書くこと」には、課題が見られます。授業の中で、書き始めると書くことが目的化してしまい全体の構成への意識がおろそかになっていると考えられます。

(3) 学力向上のための取り組み

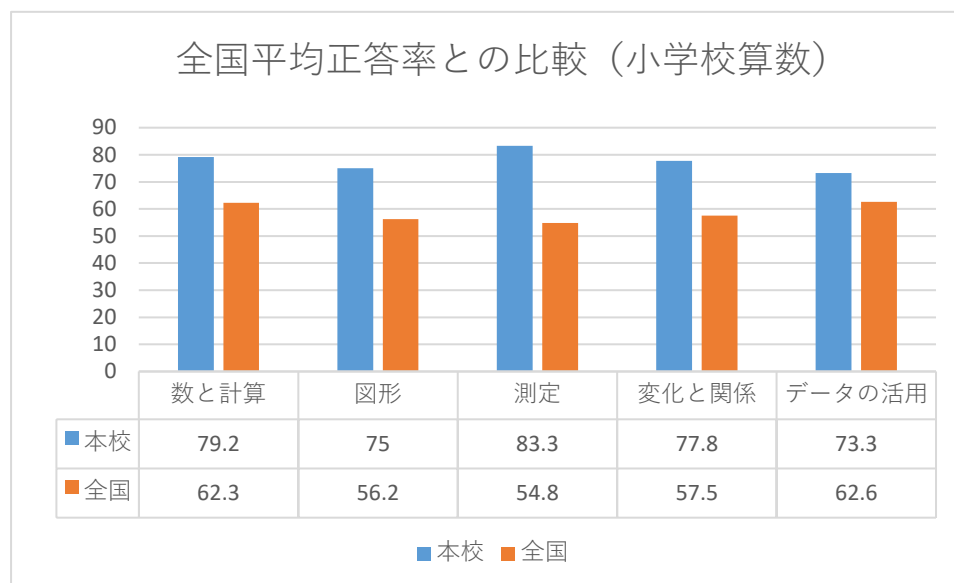
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 「書くこと」では、授業の中で書き始めた後にも目的を具体的に示し、確認する時間を設定することで、目的からずれないような文章構成を考えさせていきます。

【ご家庭では】

- 語彙が増えることは、ものを考えるときの手助けになります。また、自分の気持ちをより正確に伝えるときの手段になります。お子様の語彙を増やすために読書の習慣をつけさせましょう。一緒に読書することも効果的です。
- お子様と会話を楽しみましょう。新聞記事やテレビニュースから話題をあげ、自分の考えを話したりお子様の考えを聞いたりしましょう。共感したり根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流しましょう。

3 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を上回っています。「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」では、全国正答率を大きく上回っています。全ての領域で無解答ありませんでした。

(2) 成果と課題

授業の中で話し合う活動や自分の考えを式や言葉を使って論理的に書く活動を多く取り入れている成果が見られていると考えられます。また、家庭学習を着実にやっている成果の表れだと考えられます。

複数の資料の関係を考えて読み取ること、複数の条件に合わせて言葉や数で説明すること、長文の問題を読み取ること課題が見られました。

(3) 学力向上のための取り組み

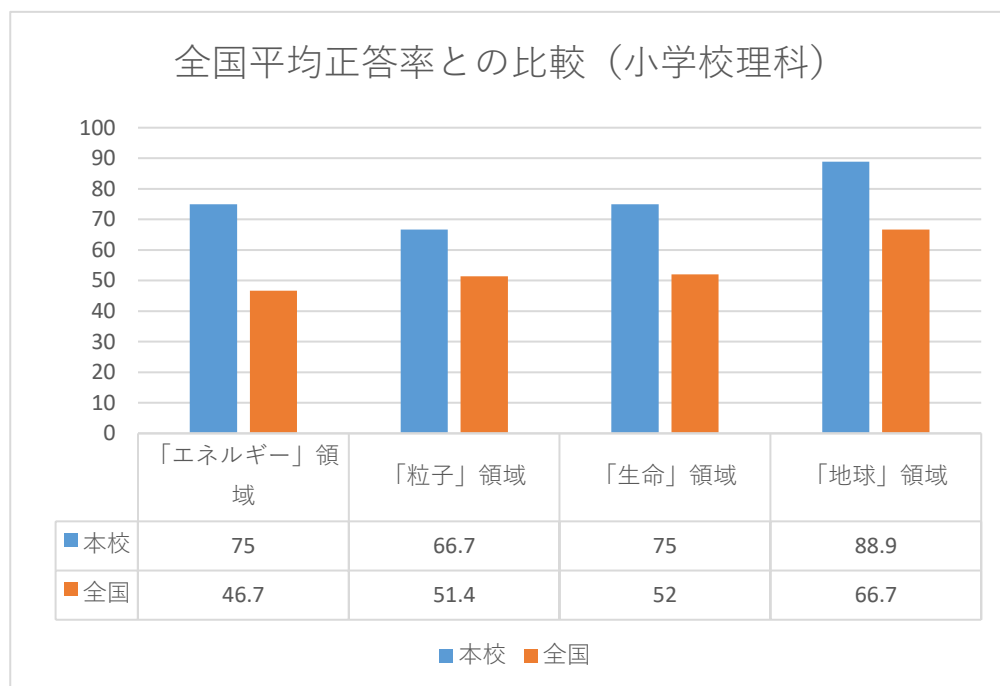
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を多く取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やします。
- 複数の条件がある記述式問題に取り組ませ、思考力・表現力の向上を図ります。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数で学習したことを生活に生かすようにさせましょう。「買い物の場面で代金・おつり・割合(%)」「お菓子数えでかけ算」「料理で重さ・かさ」「おり紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブで速さ・時間・道のり」等、身の回りには、算数が使えるものがたくさんあります。生活の中で算数を使うことで算数が好きになると考えられます。

4 理科



(1) 結果

全領域で全国平均を大きく上回っています。無回答率も0%でした。

(2) 成果と課題

授業では、少人数を生かして一人で実験をしたり実験後の考察を書いて話し合ったりたりすることを多く取り入れています。単元の最後には、「分かったこと」「頑張ったこと」を振り返っています。児童は、実験・観察が大好きで意欲的に取り組むことができます。その成果が表れていると考えられます。

3 学年・4 学年で学習した内容を忘れてしまっていることが課題として見られました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 実験・観察後の考察を日常生活の現象と結び付けて考えさせます。
- 単元の最初に前学年で学習したことで関連のあることを復習させます。

【ご家庭では】

- 理科を好きにさせるためには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが大切です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。